

平成28年度小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業
 本体事業1年目事業申請書(事業計画書)詳細版

事業実施者	昭和村商工会
事業名	森林資源の活用とスポーツ交流による新たな魅力づくりプロジェクト
共同実施者	

* 記入欄は、必要に応じて大きさを変更してください。

1. 地域の課題と地域資源について

本事業を活用することで、何を実現したいか、それはなぜか、また、これまで地域が実施してきた取組みとの関係性や、それらと比較した場合の今回の取組みの新規性はどこにあるかを意識して、下記の枠に簡潔に記入してください。

○地域の現状(強み、弱み)とこれまでの取組み・実績

・地域の概要

群馬県昭和村は、利根郡の最南端にあって赤城山の西北麓に位置し、東西10.8km。南北9.8kmの扇状の形態で、標高260mから1,461m。500mから800m付近までゆるい傾斜をなす赤城高原地帯を形成し広大な農地を有している。当地の自然環境は朝晩の寒暖の差や霧が発生しやすい地域で、農産物、果樹等の栽培に適した気候と水はけのよい良質な土壌があり多種多様で品質の良い農産物が生産され首都圏の台所といわれている。

昭和33年に久呂保村と糸之瀬村が合併し昭和村が誕生し、自主自立の村として特色のある村づくりを進めている。

・人口の推移

昭和37年には10,315人であったが、昭和47年には8,595人、昭和57年には8,382人、平成7年には8,170人、平成17年には7,907人と人口減少が続いている。村は平成17年9月に策定した総合計画の中で、平成26年度の人口を7,800人としたが、平成27年4月1日は7,681人となっており、現状のまま推移すると、平成31年には7,300人程度、さらに平成36年にはおよそ7,100人程度になると予測されている。

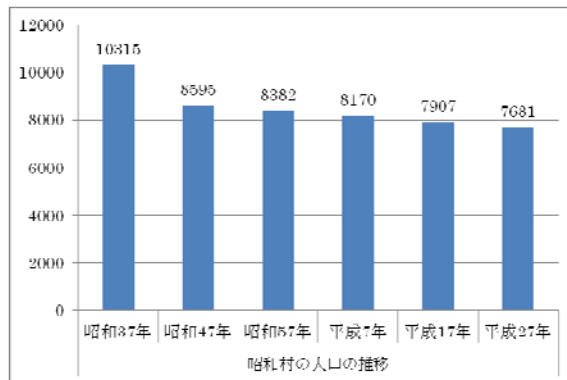
・産業構造の推移(業種構成、業種別の事業者数の推移等)

本村の産業形態をみると総農家数は713戸(内専業農家384戸)、商工事業者数は206事業所(内商工会員160)である。商工業者の内訳は、建設業53、卸小売業51、サービス業72、製造業20、その他6となっている。

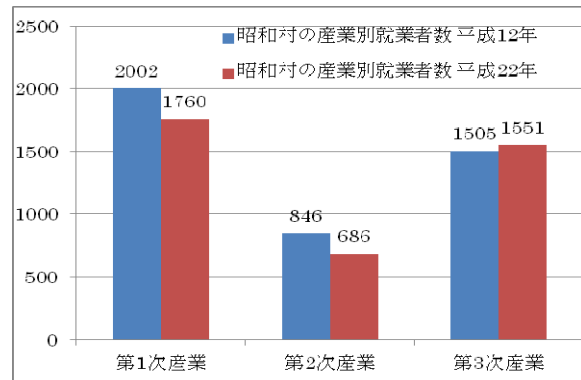
産業就業者数で見ると、第1次産業が44.0%、第2次産業が17.2%、第3次産業が38.8%となっており、住民の半数近くが農業に従事する農業を基幹産業とした純農村地域である。



昭和村の人口の推移



昭和村の産業別就業者数



・地域の名産品・地域資源等

村の面積が64.17km²の内、約40.9%の2600haが農地である。赤城高原の広大な農地と準高冷地の特性を生かし、日本一のこんにやく芋の生産地である。その他、レタス、ほうれん草、小松菜などの高原野菜やトマト、りんご、いちご、花卉などの施設園芸も盛んに行われ、「☆ベジタフルガーデン 昭和村☆」をキャッチフレーズに村づくりを推進している。

本村は東京から新幹線で1時間強、車で2時間圏内の緑が豊富で美しい景観を有していることから、「日本で最も美しい村連合」にも加盟している。自然豊かな地形と森林資源を活かし、スポーツ施設も充実している。公設の野球場、サッカー場、多目的グラウンドや屋内運動場などを備え民間でもゴルフ場、山荘の運営やサッカー合宿施設など村民がスポーツを楽しむ土壌がある。また、友好交流都市である横浜市の野外体験施設「赤城林間学園」があり横浜市との交流を盛んに行っている。

平成23年7月には、「道の駅めぐりむ昭和」が開設され、既存の農産物直売所を中心に、農家レストラン、観光案内所等を設置し、観光交流の拠点としての役割が大きく、各施設の有機的な連携で観光交流事業の推進による観光産業の拡大が期待されている。

・これまでの取り組み

平成16年度から当地の基幹産業である農業との連携を目指し各種事業を行ってきた。農業と観光の連携や農業の6次産業化、農商工連携事業の推進など「観光開発事業」や「特産品開発事業」「海外展開の取組み」「人材育成と組織づくり」など各事業を有効活用しながら確実に成果を上げてきている。

平成26年度に実施した「全国展開支援事業」は「昭和村の歴史と食文化+新たな価値創造プロジェクト」を実施し特産品の開発に成功した。第17回グルメ&ダイニングスタイルショーでは、フード部門の大賞を受賞している。これらの取組みは、参画事業者を引き継ぎブラッシュアップを図っている。

同年に実施した「地域内資金循環等新事業開発検討事業」でも大きな成果を上げている。「地域資源を活用したスポーツ活動による地域交流人口増加事業」をテーマにし、検討協議した結果、平成27年5月に「第1回やさしい王国昭和村河岸段丘ハーフマラソン大会」を開催す



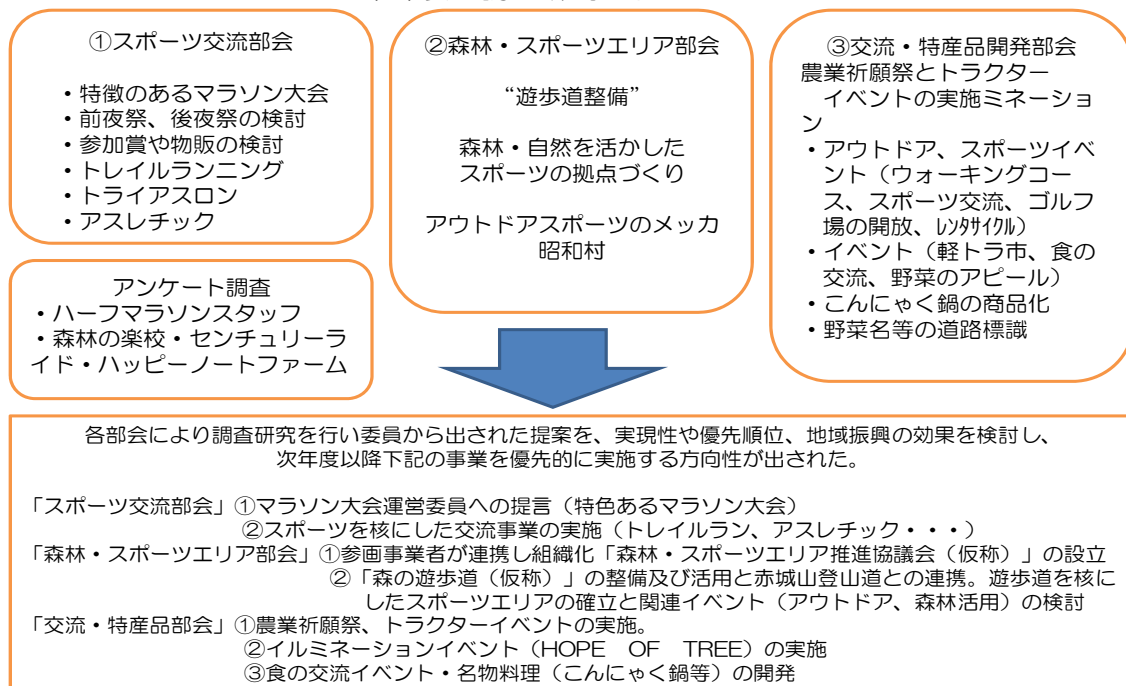
ることができた。1, 423名のエントリーがあり、地域内資金循環事業で委員であった女性や青年部が中心になり大会開催に向けて大きな力を発揮した。

平成27年度は全国展開支援事業調査研究事業を実施した。事業内容は、平成26年度に実施した地域内資金循環等新事業開発検討事業を継続する形でテーマを「スポーツ交流で地域の魅力を再発見！交流人口増大プロジェクト」として実施した。

事業の内容は、①スポーツ交流 ②森林・スポーツエリア ③交流・特産品開発の3つのテーマを中心に調査研究を行い、今後の方向性を決めることなど大きな成果を上げることができた。

平成27年度小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業（調査研究事業）
「スポーツ交流で「地域の魅力を再発見！」交流人口増大プロジェクト」

●本年度の調査研究のまとめ



平成26年度地域内資金循環新事業等開発検討事業、平成27年度全国展開支援事業調査研究事業を通じ、スポーツを核にした地域振興、交流人口の増加について調査研究を行うことができ、今後は、スポーツを通じた交流人口の増大についてさらに踏み込んだ調査と観光商品開発や特産品開発を具体的に地域内の魅力を最大限発揮し、地域に経済効果をもたらすような事業の実施が求められている。

○地域の課題（※コミュニティビジネスの場合は、詳細に記載）

※「コミュニティビジネス創出事業」の場合は、下記の「活用する地域資源」は地域の課題に該当しますので、本項目に「解決したい地域の課題」を詳しく記入してください。

昭和村は、首都圏から近く自然や景観、歴史・文化があり、多くの農畜産物が生産されているが、地域内では地域資源としての認識が弱く有効に活用されていない。

農畜産物の一大産地であることや首都圏から近いことなど優位性をアピールし、知名度を上げていくことにより、無名の生産地から脱することができ地域ブランド化になる。その結果、観光振興や、交流人口の増大等地域経済の活性化になる。

地域の人口減少と少子高齢化が進んでいる。人口減少や大規模小売店の出店で小売店の減少が顕著に表れているその結果、地域コミュニティの希薄化も進んできている。

人口増加対策も早急に必要であるが、経済活動の観点からは、交流人口の増加による経済活性化策が喫緊の課題である。当地の魅力を最大限伝えるための観光産業の創出を地域経済の起爆剤として立ち上げる必要性がある。その際、主幹産業である農業と地域商工業者が連携をとり一致団結し、今まで積み重ねてきたノウハウと組織力を活用し、積極的に事業に取り組むことが重要である。

地域内資金循環新事業等検討事業、全国展開支援事業調査事業を行ったことで具体的な課題と今後の方向性が洗い出された。森林とスポーツを中心に交流人口の増加を図る取り組みが成功することで地域に及ぼす効果が大きく、課題であった観光産業の振興につながる。その為に本年度事業を実施し、新たな産業の創出のためのスタート年とする。

○将来の地域像や長期ビジョン

農業が基幹産業である当地は、自然豊かな美しい地域である。そこで生産される農畜産物をより多くの消費者に供給し、農業ブランド、地域ブランドとして確立させていきたい。それにより商工業者の振興発展にもつながり、観光産業の創出により各産業の相乗効果が見込まれる。昭和村では、「農業」「景観」「環境・産業」「交流」をキーワードに小さくても輝くオンリーワンの未来に向けて取り組んでいる。それら各分野の強みや特徴を相互にリンクさせることで、今まで気づかなかった価値が生み出される。その価値を地域の宝として共通認識を持ち広く情報発信をしていくことで「小さくても元気な村づくり」が達成できる。

過去行ってきた取り組みと、昨年、一昨年と継続的に行ってきた調査事業をもとに具体的な行動に移し、昭和村の持つポテンシャルを最大限発揮できるよう積極的に事業を推進する。

今年度の事業を通じて、「森林とスポーツ・健康・食」を切り口に昭和村の魅力を再確認し、地域資源を磨き上げ当地独自の観光資源とし有効活用していく。

ウォーキングやランニングは、一大ブームで多くの人々が行っている。受入れ側は、設備投資することなく低コストで迎え入れることができ、大きな効果が期待できる。今回の取り組みで核となる森林・スポーツエリアが設置され、関係者が協力体制を確立することで地域の魅力が大きく飛躍する。

その結果、交流人口の増大につながり、来村者は、地域の様々なコトを知ることができる。美しい「景観」やそこで生産される安心安全な「農産物」。地域内で体験することで知る「環境・産業」、その場で出会う人々との「交流」が生まれる。キーワードを有機的に連携しそれぞれの価値を高めることで、地域に「賑わい」を創出でき、継続的に繰り返すことにより、元気な地域づくりに繋がり地域経済の発展となっていく。

森林とスポーツの連携という新しい切り口で地域の連携を強め組織化により継続的な取り組みで、3年後、5年後には地域の魅力を発信し交流人口が拡大され、大きな経済効果を生み出し、農畜産物のブランド化や新たな産業の創出、観光交流の活発化と地域経済の活性化につながる。10年後には、「アウトドアスポーツのメッカ昭和村」となっていく。

○活用する地域資源

※「コミュニティビジネス創出事業」の場合は、上記地域課題を解決するために活用する人材や組織（団体）などを記入してください。

●日本で最も美しい村連合の「森林、農山村、広大な畑の風景、養蚕古民家、河岸段丘」などの景観。特に村南東部のゴルフ場、山荘、サッカー合宿施設、横浜市林間学園のエリアを森林・スポーツ推進エリアとして連携強化し地域内の歴史や文化も含め総合的な観光交流メニューとして有効活用していく。

●多くの自然が残る森林の活用。森林整備を観光交流につなげる

●広大な農地で利用されている大型トラクターを観光資源として活用。村内農家が所有するトラクターは513農家で1270台が村内にある。トラクターイベントを検討・実施し農業の村、

農畜産物の一大生産地をアピールしていく。

- 六次産業化や農商工連携により開発された加工品と広大な農地で生産された農畜産物
- 若者、女性を中心にした地域のやる気のある人材と歴史文化を知る高齢者
- NPO法人やボランティア団体との連携

2. 本年度の事業計画と期待される効果について

1. の分析を踏まえて、本年度・次年度の事業計画を記載してください。

※本体事業を1年のみ活用する場合は事業化に向けたビジネスプランを記載してください。

(1) 本年度の事業の目的および目標

数値を用いる等**具体的に**記載してください。

○本年度の目的および目標

●目的

昭和村の魅力を発信するために、地域資源を有効活用し、昭和村を「知ってもらう」「来てもらう」「体験してもらう」「買ってもらう」「感じてもらう」「好きになってもらう」「また来てもらう」という継続的な仕掛けづくりを行っていく。

平成26年度の地域内資金循環新事業開発検討事業、平成27年度全国展開支援事業調査研究で行った調査結果をもとに、森林・スポーツエリアの確立を目指し、「森林・スポーツエリア推進協議会（仮称）」を設立し、活動の拠点となるエリアを確立し、参画事業者の持つ資源の共有利用と連携強化を進め、昭和村の持つ魅力の増大と特色ある地域づくりを推進する。

また、地域の農畜産物等を活用した特産品を開発し、来村者等への提供を通じて昭和村の農と食、スポーツと健康をアピールし、交流人口増加による地域活性化と経済発展につなげていくことを目的とする。

●目標

(1) 組織づくり「森林・スポーツエリア推進協議会（仮称）」を設立

⇒ 平成28年10月までに設立することを目標

(2) 森林・スポーツエリアの有効活用

①遊歩道の整備と運用開始及び活用方法の検討と赤城登山道との連携

⇒ 本年度中に整備を終了させ、平成29年4月に運用開始を目標

②森林整備と林業の活性化、森林エリアの有効活用の取り組み

⇒ 関係機関、団体等と連携し事業を実施 年3回実施を目標

(3) 各種イベントの検討と実験的事業の実施

①トラクターイベントの研究と検討

⇒ 農業者、関係者と検討 平成28年10月までに方向性を決定

②あぐりーむ神社の建立と安全祈願祭

⇒ 道の駅あぐりーむ内に神社建立 平成28年4月29日予定 活用方法を検討

③イルミネーションイベント

⇒ 平成28年12月に実施予定

(4) 特産品開発

⇒ 地元食材を活用した特産品開発1品以上を試作し、平成29年4月以降、地域内の参画事業所で提供できるよう体制を整備する。

(5) その他

⇒ 委員会等で計画、実行、評価、改善を徹底し、より良い事業推進を図る

○事業実施後に期待される地域への効果

(1) 組織づくり

「森林・スポーツエリア推進協議会（仮称）」が設立されることによりエリア内の事業者が連携し事業に取り組むことができる。また、事業者間での協力体制ができることで各施設の有効活用や新たなサービスの提供につながる。

(2) 森林・スポーツエリアの有効活用

遊歩道の整備と運用が開始され、エリア内の横の連絡が可能となる。施設を繋げることで利用者に対するサービスが向上する。また、赤城山登山道に連結させることで本格的な登山愛好者にも満足いくコースが設定できる。

森林整備と林業の活性化が進められる。森林エリア内の森林資源を有効活用し、林業体験や森林ボランティアの受け入れが可能になる。新たな観光商品としても体験メニューとして活用でき尚且つ林業振興や環境保全にも役立つ。

(3) 各種イベントの検討と実験的事業の実施

昭和村の各農家が所有するトラクターは1270台となっている。大規模農業には不可欠な大型トラクターをクローズアップし昭和村の農業や農産物をアピールすることができ、他地域には無い特徴あるイベントとなる。

あぐりーむ神社の建立と安全祈願祭は、観光拠点である道の駅に農業の神社を建立し訪れるお客様に農業の村であることをアピールすることができる。また、地元農家のために安全祈願祭や豊作祈願祭など実施することで農家の協力体制も築くことができる。

イルミネーションイベントは、冬季の観光客減少対策となり「真っ暗な夜を体験できる」新たな観光メニューとなる。

(4) 特産品開発

地元食材を活用した特産品開発を行うことにより、地域独自の商品を提供できる。観光客に対するおもてなしにもなる。

上記の事業を実施することにより、それぞれの取り組みを有機的に連携することで、大きな効果となり、昭和村の魅力を向上させることができる。

人のつながり⇒ 村民の連携と一体感・価値の共有⇒ 交流人口の増大 ⇒経済活性化
⇒「小さくても元気な村づくり」を達成できる。

○達成すべき指標と指標データの収集方法（評価方法についても記載してください）

【観光入込客数】

指標とするものは、村で調査し、群馬県観光局がまとめる「観光客数・消費額調査」とする。

現 状	（平成26年度）	53.6万人	実績
本体事業1年目	（平成28年度）	54.1万人	現状対比 1.0%UP
本体事業2年目	（平成29年度）	55.2万人	現状対比 3.0%UP
5年後	（平成31年度）	57.3万人	現状対比 7.0%UP
10年後	（平成36年度）	60.0万人	現状対比12.0%UP

全国展開支援事業本体事業を活用し森林資源とスポーツを関連付けた観光開発で昭和村の観光入込客数を増加させる。主な取り組みとして森林資源を活用した遊歩道を整備し多様化するスポーツ愛好者の受け入れ体制を整備する。一つの核を作ることでそれに関連するサービスに繋がり集客力を高める。

食と農を関連付けた特産品で観光客等の満足度を向上させ、リピーター化につなげる。参画する事業所と連携を密にし、定期的な情報交換を行いPDCAサイクルの確立と観光産業の振興を目指す。

(2) 具体的事業計画の内容

上記(1)の目標に向けた具体的な事業計画(ターゲットとする市場やユーザーなども念頭に)を**詳細かつ具体的に**記載してください。

○全国・域外に展開しようとする、又は域外から呼び込もうとする商品やサービスの内容

①遊歩道の整備及び活用方法の検討

- ・森林・スポーツエリアに遊歩道を整備しスポーツ施設の連携強化を図る
- ・赤城山登山道と連結させ魅力を増大

②遊歩道を核にした関連スポーツと森林資源の活用

- ・遊歩道を活用したスポーツ振興の調査・研究・検討・実験的事業(ウォーキング、ハイキング、トレイルラン、MTB、サイクリング、アスレチック等アウトドアスポーツ)
- ・森林ボランティア、林業体験等の検討と実験的事業

③地域の食を活かした特産品や名物料理の開発と地域内での提供方法の検討

- ・特産品試作特提供のためのイベントの実施
- ・特産品等の展示会、イベント等への出展

④地域の魅力を発信するためのイベント等の調査研究・実施

- ・トラクターイベント、農業体験イベント
- ・あぐりーむ神社建立と農業安全祈願祭
- ・イルミネーションイベント

⑤視察調査・研修の実施

- ・先進事例、特色ある取り組みについて視察研修の実施

⑥情報の共有と連携強化

- ・委員会、研究部会の開催
- ・事業報告会の実施

⑦情報発信

- ・地域情報を地域内外に情報発信(HP、SNS、プロモーションビデオ等)

○ターゲットとする市場やユーザー

※コミュニティビジネスの場合は、課題を解決し、創出するコミュニティビジネスの内容等を記入してください。

ウォーキング人口は年々増加し4,000万人とも言われており、年齢層も幅広く小学生から高齢者まで行っている。スポーツとしてウォーキングを考えた場合は、日本で一番のスポーツ人口になる。また、英国発祥のフットパスも日本各地で行われており地域活性化につなげ成功している地域が出ている。登山、ハイキングも相変わらず中高年を中心に人気があり、山ガールなどと呼ばれ若い女性にも人気のあるスポーツである。

マラソン人口は1,000万人を超えと言われており、日本人の10人に1人が走っていることになる。その他、大会には出ず健康増進のためジョギングを生活に取り入れている人も多く愛好者を含めれば2,500万人とも言われている。マラソン大会も各地で行われ多くのランナーを集めている。地域の特色を出した大会運営により地域振興につなげるような大会も開かれている。

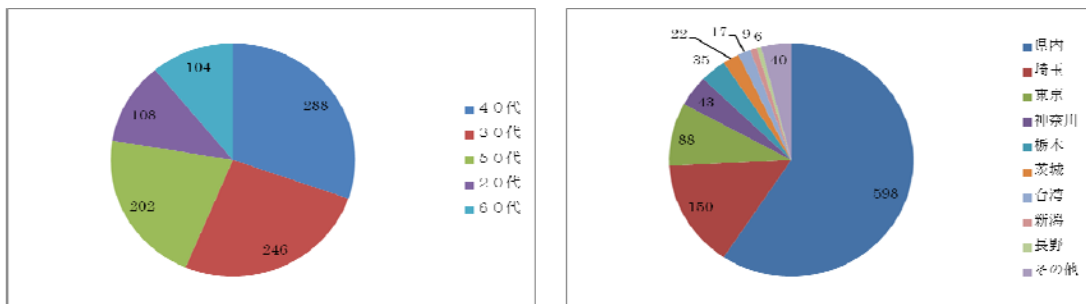
スポーツサイクリングも人気のあるスポーツになってきている。ブームを牽引しているのは30~40代の男性。健康管理やダイエットの一環でサイクリングに取り組み、夢中になったという例が少なくない。エコ意識の高まりを受け、ライフスタイルに自転車通勤を取り入れる人も増え続けている。日本生産性本部がまとめた「レジャー白書」によると、自転車の参加人口は平成20(2008)年の950万人から、21年(2009)には1,520万人と大きく伸び、ランニングと同様に市場の成長が続いているという。

マウンテンバイクやトレイルランなど森林エリアで行われるアウトドア系のスポーツ人気も高まっている。しかし、実際に受け入れできる施設、地域が少なく愛好者は、アウトドアスポーツを受け入れてくれる場所を探している。多様化する消費者ニーズに対応していくことができれば、新たな市場の開拓ができ当地の魅力を伝えることができアウトドアスポーツのメッカになることも可能である。

ターゲットは首都・関東圏に住むスポーツ愛好者。男性比率が高いが女性、家族を含めターゲットとし、特にウォーキング、ランニング、自転車を楽しむ愛好者とする。スポーツを楽しむ人は健康志向であり、当地の特産である安心安全な農畜産物を知ってもらえば大きなユーザーとなり得る。

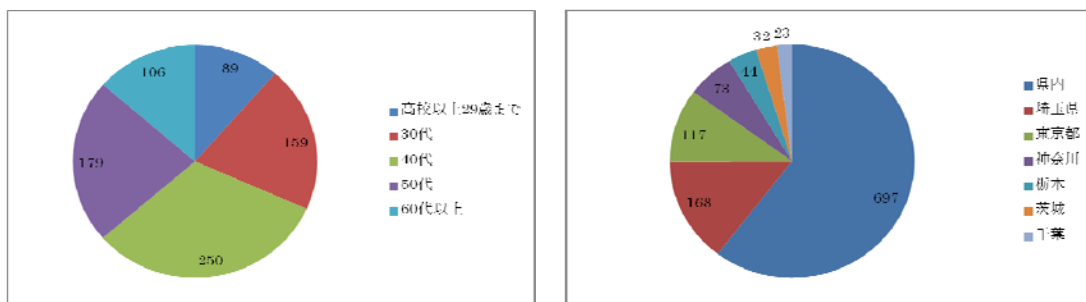
●センチュリーライド2014（自転車競技大会）の参加者状況

参加者数 1,008人

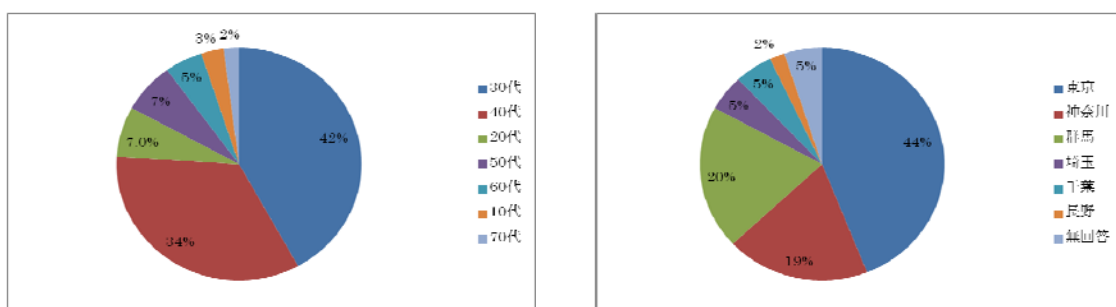


●第1回やさい王国昭和村河岸段丘ハーフマラソンエントリー状況

エントリー数 1,423人



●その他、森林ボランティア、農業体験、MTB大会の参加者状況



○新規性や独自性

昭和村は、関東を代表する大規模農業を行っており、こんにゃく芋の生産は日本一を誇り、その他高原野菜など多種多様な農産物が生産され自然豊かな地域である。また、東京から車で2時間圏内でありアクセスの良さや自然、景観、農村風景などが認められ日本で最も美しい村連合に加盟するなど、他地域とは異なる規模で地域資源を活用した農業観光や特産品提供が可

能な稀有な地域である。

平成16年度より観光開発の取り組みを行ってきたが、平成26年度、27年度の調査事業で新たな切り口で観光開発、特産品開発の経済活性化策がまとめられた。

森林とスポーツを連携させた観光開発は、スポーツ施設、事業者が連携し新たな切り口で地域の魅力を発信するもので、それとともに食と農を活用した特産品開発により、観光振興と産業振興につながるもので新規性と独自性を発揮する事業である。

【個別事業ごとの内容】

どのような事業を、どういった内容で、いつ、いくら予算で実施するか、という予定を具体的に記載してください。また、各事業の実施時期について、矢印で示してください。

事業項目	事業内容	実施時期					得られる成果
		1/4半期	2/4	3/4	4/4	2年目	
委員会	事業の進捗状況と方向性の確認	●		●	●	●	事業に対するコンセンサスの形成と地域内波及効果
研究部会	研究テーマごとに調査研究	→					研究テーマに対するコンセンサスの形成と地域内波及効果
観光開発 実験的事業	観光商品の検討、開発、実験的事業	→					地域に新たな観光商品による魅力創出
特産品開発	特産品・名物料理の検討、開発、試作	→					地域に新たな特産品等による魅力創出
視察調査	委員及び参画事業者の視察		●	●	●	●	先進地、成功事例のノウハウや仕組み習得
展示会等出展	地域特産品の展示会出展			●	●		地域特産品を全国に向け発信。改良等情報収集
報告書作成	報告書作成				●		地域内の情報の共有と可視化

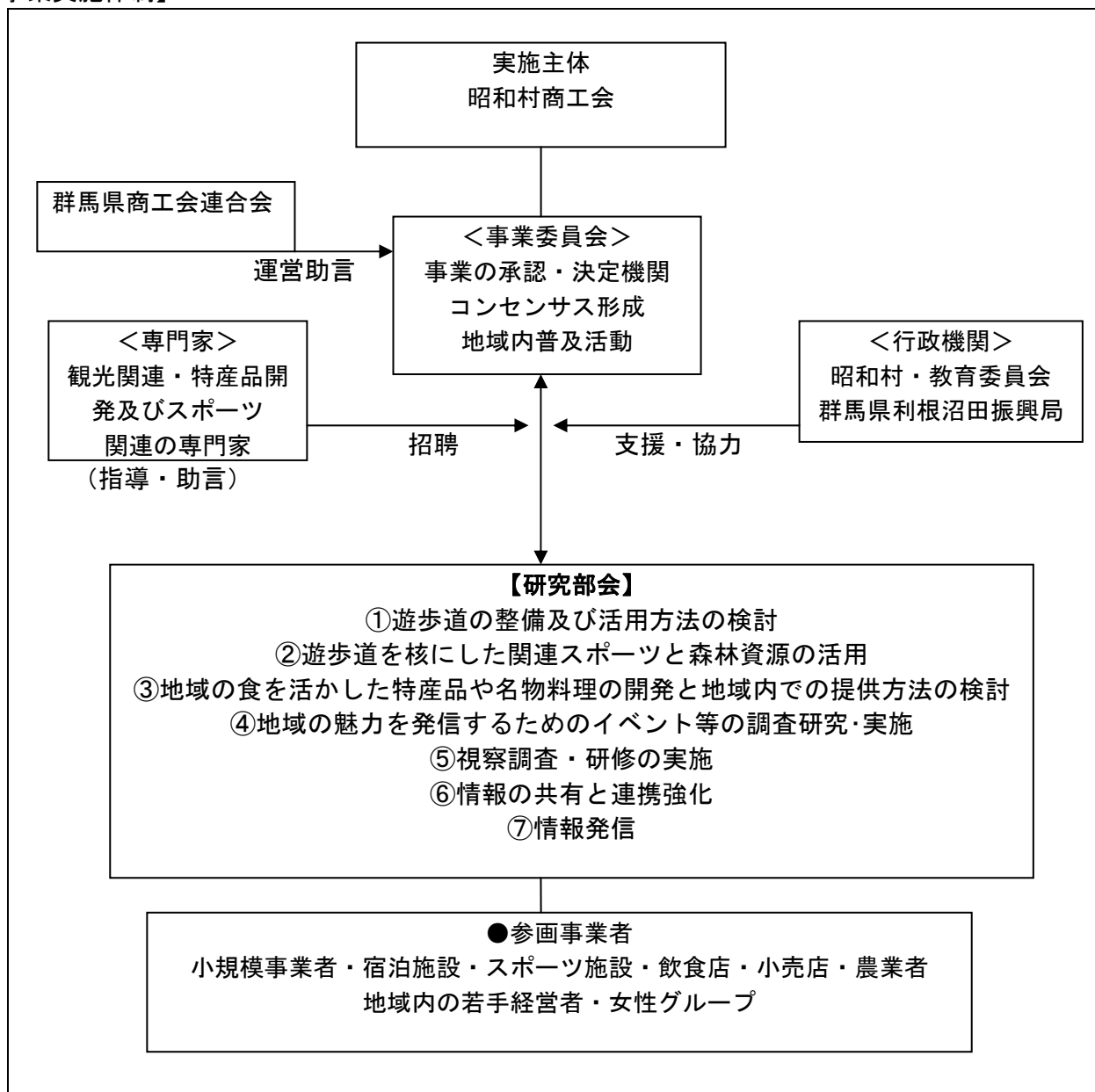
3. 事業実施体制

本事業における組織体制の概要を図示してください。

この際、設置する委員会、参画する事業者、関係者（自治体等）、招聘する専門家、市場調査・試作品開発等委託先の関係と各々に期待される役割等を図を用いて具体的に説明してください。）なお、プロジェクト参加予定者の詳細については、下記5. に記載してください。

また、本年度の事業の成果等を評価し、今後の事業全体の進め方を検討する仕組みについてもできる限り記載してください。体制構築にあたっては、女性や若者の参加を働きかけるなど、事業効果を高める体制構築を検討してください。

【事業実施体制】



4. 他の中小企業施策との連携について

本事業と他の中小企業施策その他の施策との連携を図ることが予定されている場合は、具体的に記載してください。

経営発達支援計画において本事業を位置づけている場合にも記入してください。認定を受けている場合にはその旨記入してください。

昭和村企画課が進めている赤城山登山道整備事業と連携し事業を推進する。役場担当者に委員会のメンバーに参加してもらい情報共有を図りながら連携協力のもと事業を進める。

5. プロジェクト参加予定者

(1) 想定される専門家

氏名	所属・役職	専門分野	役割・選定理由等
長岡 力	(株)リンク&イノベーション・代表	観光開発・商品開発	事業コーディネート・全国の地域振興事業・商品開発で実績がある。
鹿住 貴之	樹恩ネットワーク・事務局長	森林活用	森林活用に関する指導・森林ボランティア支援等全国での実績がある。

(2) 想定される委員会委員

氏名	所属・役職	専門分野	役割・選定理由等
治田 貞賢	昭和村商工会・会長	商工業全般	推進委員長・商工会長であり事業の全体の実施者
高橋 紹郎	昭和村商工会・副会長	商工業全般	事業委員として運営全般を担当
諸田 郁夫	昭和村商工会・副会長	商工業全般	事業委員として運営全般を担当
藤井 朋和	昭和村商工会・青年部長	商工業全般 商工会青年部全般	商工会青年部の立場から若手経営者の指導助言
西澤 由美子	昭和村商工会・女性部長	商工業全般 商工会女性部全般	商工会女性部の立場から女性経営者の指導助言
兵藤 喜孝	昭和村議会議員・文教産建常任委員長	村議会	村議会議委の立場から地域振興についての指導
倉澤 新平	道の駅めぐり一む昭和	観光案内、農業体験 観光業の拠点	観光振興担当・観光交流の拠点である道の駅駅長
倉澤 正志	赤城西麓土地改良区	農業支援全般	農業支援団体として農業振興に関する指導助言
堤 美德	昭和村企画課・課長補佐	村観光振興	観光振興担当・行政の産業振興に対する指導助言
島田 宏充	昭和村産業課・課長補佐	村産業振興	産業振興担当・行政の産業振興に対する指導助言
飯塚 昭雄	群馬県商工会連合会	商工会事業運営	県連合会として事業の適切な運営に関する指導

(3) 想定される参画事業者等

氏名	事業所名等	役職	業種	従業員数	小規模事業者 ※1	若者 女性 ※2
加藤 将之	グリーンスコレ(株)	代表取締役	宿泊施設	5	○	○
光山 哲男	(株)タガントヴァルト	支配人	スポーツ 合宿所	10	○	
須藤 俊哉	横浜市林間学園	学園長	公共施設	6		
石坂 哲也	フォレストノーツ	代表	森林サー ビス業	0	○	○
涌井 博美	(株)日立金属エステ	所長	不動産管 理	1		○
金井 圭太	奥利根ワイン(株)	代表取締役	ワイン製 造業	4	○	○
金子 洋一	金子トマトベリーファーム	代表	農業	3		○
星野 高章	(有)星ノ環	代表取締役	農業・サー ビス業	5	○	○
真下 和也	道の駅 あぐりーむ昭和	農園担当	観光案内・	5		○
兵藤 美鈴	(株)兵藤建設	代表取締役	建設業	6	○	○
竹内 里美		創業希望者	飲食業			○
綿貫 里織		創業希望者	飲食業			○

必要に応じて記入欄を増やしてください。

※1. 小規模事業者の場合は○印を付してください。

※2. 若者（45歳以下）又は女性の参画者には○印を付してください。

若者及び女性が参画事業者の半数以上を占めている場合は、右欄に○を付してください	○
---	---

6. 事業化スケジュール、ターゲット・販路について

(1) 事業化スケジュール、目標

以下のフォーマットを参考に補助事業終了後の事業化（新たに開発した商品等による売上の発生）に至るまでのスケジュール、売上見込み等事業化の目標を記載してください。開発する商品等が複数ある場合は、案件毎に記載してください。

【特産品開発の場合】

開発する商品等の名称		特産品開発（農畜産物を活用した名物料理）			
実施事業者・グループ		青年及び女性グループ、地域内飲食店			
事業終了後の経過年度		補助事業終了 1年目 (平成29年度)	補助事業終了 2年目 (平成30年度)	補助事業終了 3年目 (平成31年度)	補助事業終了 4年目 以降
事業内容	① 試作品の改良	⇒ ⇒ ⇒	⇒		
	② 商品化	⇒	⇒ ⇒		
	③ マーケティング調査	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
	④ 商品等の生産		⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
	⑤ 製品等の販売			⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
目標売上高	① 売上目標（単位：千円）	0	600	1,500	2,400
	② 販売目標（単位：個）	0	2,000個	5,000個	8,000個
	③ 売上目標の算出根拠		@300×2000	@300×5000	@300×8000
	④ 想定される販売先		道の駅、 地域内飲食店	道の駅、 地域内飲食店	道の駅、 地域内飲食店

【2：観光開発】

開発するサービス等の名称		森の遊歩道（仮称）			
実施事業者・グループ		森林・スポーツエリア推進協議会（仮称）			
事業終了後の経過年度		補助事業終了 1年目 (平成29年度)	補助事業終了 2年目 (平成30年度)	補助事業終了 3年目 (平成31年度)	補助事業終了 4年目 以降
事業内容	① サービスの改良	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
	② 商品化・提供	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
	③ マーケティング調査	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
	④ PR・販路開拓	⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
目標売上高	① 売上目標（単位：千円）	750	1,500	4,500	7,500
	② 利用者・入込目標 （単位：人）	500人	1,000人	3,000人	5,000人
	③ 売上目標の算出根拠	1人当たり 消費額 1,500 ×500人	1人当たり 消費額 1,500 ×1,000人	1人当たり 消費額 1,500 ×3,000人	1人当たり 消費額 1,500 ×5,000人
	④ 想定される利用客	観光客、 愛好者	観光客、 愛好者	観光客、 愛好者	観光客、 愛好者

(2) 想定するターゲット・販路

【特産品・観光開発の場合】

開発商品の生産性（原料確保、生産設備等）、販売体制（観光開発の場合は受け入れ体制）、継続性（単年度限定商品、単発イベントではない）および収益性を考慮し、実現可能性の高い目標として優先度の高い順に記載してください。

ターゲット例：ファミリー、独身者、アクティブシニア、〇代男性・女性等

販路例：百貨店、アンテナショップ、スーパー、コンビニエンスストア、専門店、量販店、卸、通信販売業者（WEB、テレビ、カタログ等）、ホテル、飲食店、旅行代理店、個人旅行者等

順位	ターゲット	販路先
①	アウトドアを楽しむ30歳～50歳代の愛好者（観光）	アウトドア関連業者（大会の誘致） 旅行代理店
②	健康志向、食育・農育に関心のある30歳代から50歳代のファミリー層（観光・特産品）	道の駅めぐりーむ昭和、地元飲食店 子育て支援企業、出版社 旅行代理、
③	森林や農業体験に関心のある20歳代から60歳代（観光）	NPO法人、ボランティア団体 旅行代理店